

2021年度QCサークル本部方針

2020年9月7日

QCサークル本部

QCサークル活動（小集団改善活動）により、
日本産業全体の“仕事(業務)の品質/質”のダントツ化を図ろう！

【基本方針】

1. QCサークルのリーダー・メンバーは、チームワークで仕事の達成感と自己成長を図る！（人間力）
2. リーダーは、より高い目標に挑戦するリーダーシップを発揮する！（仕事力）
3. 管理者・監督者は、QCサークル活動支援を職場マネジメントの主要事項として行う！（職場力）
4. 推進事務局は、全社一丸となったスピード感あふれる改善活動の活性化のために新しい施策を企画する！（組織力）
5. 経営者は、経営に資する全社TQM推進の一環としてのQCサークル活動（小集団改善活動）の強化を図る！（経営力）

【2021年度重点実施方針】

コロナウイルスの影響により、日本産業をはじめグローバルに大きく環境が変化する中、2021年度を本部・支部・地区活動の改革元年と定め、従来の本部・支部・地区活動の運営や組織のあり方を見直し、新しい時代の組織運営を検討し、合意を得たものから実施する。

【本部・支部・地区の基本となる活動】

1. 経営者・管理者に対するフォーラム・コミュニティの開催など、QCサークル活動活性化への継続的支援活動。
2. QCサークル活動発表者への動機付け（QCサークル本部幹事長賞）とコロナ禍における大会・行事のあり方、企画・運営の工夫。
3. 支部長会社・地区長会社・幹事会社の負担軽減のための運営の効率化や分担の工夫・任期の見直し。
4. 地域の経済を担う中堅企業や生活を支える医療・福祉団体などと連携し、協力関係を築く活動を進める。
5. サービス業務を中心とした組織への普及拡大。
6. 小規模企業へのQCサークル活動（小集団改善活動）の普及・拡大・推進活動。
7. 行政、学界や経済団体との連携による、地域の特色を生かした運営。

前記方針の達成に向けた、本部・支部・地区における具体的な取り組み（例）

1. 地域の行政や経営者協会等と連携をとりながら、選抜大会や経営者フォーラムを開催し、この活動が経営成果につながることへの理解活動を展開する。
2. コロナ禍において、大会・行事の開催を前例にとらわれることなく、ITを活用したリモートや事例共有の場の提供などを本部・支部・地区が連携して検討する。
3. 推進の悩みを相談できる場を設けるとともに、各企業・組織が実施している良い推進のやり方を事例集にまとめ、相互研鑽に役立てる。
4. 個々の企業・組織のニーズに応じた研修を企画し、ITを活用した教材などの提供も含めコロナ禍における、研修会運営の仕組みを構築する。
5. 個別指導、エリア（ブロック）幹事会社制度などの具体的な仕掛けを活用し、地域の経済を支えるものづくり中堅企業、ならびに福祉・医療・教育などの社会基盤を成す分野への普及・拡大をはかり、活動の裾野を広げる。
6. QCサークル本部主体で実施した「小規模企業へのQCサークル活動（小集団改善活動）の導入・支援活動」を踏まえてモデル化した資料（導入・支援手順書）を活用し、QCサークル本部の支援・協力のもと、支部・地区の指導者・支援者ならびに現在取り組んでいる活動の更なる強化を図る。
7. 従来の幹事制度にこだわることなく、参加企業間で負荷を分担し、またIT等を活用して運営の合理化を推進し、支部長会社・地区長会社、幹事会社への負担軽減を図る。
8. 開発・営業・サービス・管理などの間接部門への普及・拡大のための具体的なツール、リーダー・メンバーの参加意欲を促す具体的なツールにITの要素を加味して開発しこれらを活用する。
9. 発表大会や選抜大会に伴う工場見学会／講演会などを、参加者に、コロナ禍でも安全に実施できるよう、ITやオンラインツールを活用した企画・工夫を図る。
10. 自己啓発、相互研鑽と情報共有だけでなく、多くの企業・組織に必要とされる情報誌として構成し、大会や研修会など、『QCサークル』誌の活用を図る。2サークルで1冊の購読を目標として、現場力（職場力）の更なる向上を図る。

【2021年度重点取り組み事項】

本部・支部・地区が強固な連携をとり、QCサークル活動の本質を再認識し、支部・地区活動の行事・大会、事務作業の効率化やQCサークル大会における賞のありかた等について、本部内に「運営改革プロジェクト(仮称)」を設け検討し、合意に至ったところから実行する。